博物館だより

足寄動物化石博物館
No. 98　2008年11月

文化財保護

湯の滝　有害魚類駆除

生息数は減ったが・・・長期の課題として

湯の滝に生息する外来魚ナイルティラピアの駆除作業を10月末におこないました。

ティラピアは，天然記念物に指定されたマンガン鉱物生成現象の要である藻類（シアノバクテリア）を食べる危険な存在です。昭和60年頃から滝の下の池や下流の川に住み着いています。天然記念物指定以来，駆除作業を続けてきました。

一昨年・昨年は環境省グリーンワーカー事業として取り組まれ，足寄スポーツフィッシングクラブのみなさんが滝下の池にいる魚を捕獲し（各年5000匹），さらに下流から魚類がもどるのを防ぐ堰（小さいダムのような石積み）を池の出口に設けました。その成果があって，今年の捕獲数は2500匹。作業のあと，池の魚影は認められず，下流の川でも明らかに減少していました。

作業に参加した専門家（琵琶湖でブラックバス対策をすすめる方）は，基本的な方法は問題ないとし，今後は少なくなった魚類に対して個々に狙いをつけて駆除するなどの改良を提案しました。

来年以降は，然別湖のウチダザリガニ駆除などの例に学び，一般参加を呼びかけるなどして，実施方法の見直しを考えています。道内では，アライグマやセイヨウマルハナバチなど，外来生物による影響が問題になっています。本町においても，湯の滝の魚類を題材に環境問題への取り組みが課題です。

上　下流からの遡上を防ぐ堰（せき）

左　大型ポンプで排水し，たも網で魚をすくった

足寄動物化石博物館　フォストリーあしょろ

No.　98
2008年　11月26日発行

089-3727　北海道足寄町郊南１丁目　　電話　0156-25-9100　ファックス25-9101
Ｅ　メール　staff@museum.ashoro.hokkaido.jp
ホームページ　http://www.museum.ashoro.hokkaido.jp　（博物館だよりpdf版あり）

開館10周年

足寄動物化石博物館　開館から10年

開館以来10年間, 足寄動物化石博物館はなにをしてきたのか, 連載しています。

９　この10年に提供したもの（２）

各地の博物館には，来館の記念品を販売するミュージアムショップがあり，展示標本をデザインしたもの，芸術的にも注目されるものなど多様な記念品が提供されています。

足寄動物化石博物館で開館以来提供した記念品をまとめてみました 。

○博物館記念品の提供数

開館以来の記念品提供数の多い順に並べてみました。（　）内は，今年５月６日に到達した**入館者 20 万人までの点数**です。

- **絵葉書**（2622）　開館から続いている建物や標本のスケッチなどをあわせたもの (2271）と 2001 年アショロア 25 周年記念の「アショロア集」（351）の合計です。それぞれ５枚セットです。
- **キーホルダー**（2462）　ベヘモトプスをデザインした青色と建物を取り入れた金色の２種類があり，印刷物以外では人気が続いています。
- **マンガ**（2365）　1998 年の開館にあわせ，北本善一さんのマンガによって解説書として作成した「マンガで解説する足寄の化石」。売れ行きはやや少なめですが，ユニークな解説書として注目されています。
- **ステッカー**（1490）　ベヘモトプス柄の目立つ黄色。値段が安いこともあり，子どもたちに売れています。
- **Tシャツ**（1242）　現行のものは開館３年目からのデザインです。ベヘモトプスとアショロカズハヒゲクジラの２種類の柄。近年は，生地のカラーを増やし，子ども向けのサイズもそろえました。
- **携帯ストラップ**（992）　館職員の彫塑を原型として製作しました。
- **エコバッグ**（862）　デザイン・色あわせて４種類。時代背景もあり地道な売れ行きです。

売れ行き堅調のキーホルダー

◇記念品提供数は，入館者の６％となります。地方小規模博物館としてはまあまあの数字。「濃い」来館者像を描くことができそうです。

休館日 ‖　１２月２日，９日，16日の火曜日　24日（水）　30日，31日

博物館の動き　12月　（館の行事や職員の動き、来館団体、など）

2日　芽登小学校（郷土資料館見学）	16日　足寄高校で講話「足寄の化石」
3日　仙美里中学校職業体験	21日　デスモクラブ学習会 「動物の爪」講師：犬塚則久さん